令和８年度事業計画

畜産・食肉産業を取り巻く状況は、飼料価格の高止まりや繁殖農家の減少による素牛価格の上昇に加え、物価高騰による消費者心理の冷え込みにより、非常に厳しい状況が続いています。

一方で、海外における和牛肉の需要は年々高まっており、国全体の令和７年の牛肉輸出量は過去最高を更新する 12,627 トンを記録しています。また令和７年５月に改訂された「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、牛肉の輸出額は2024年実績の648億円から2030年には1,132億円への増額が目指されており、今後も世界に誇れる牛肉として、ますますの拡大が期待されるところです。

当公社といたしましては、令和８年度におきましても、加古川食肉センターの運営を通じて、広域的な食肉供給拠点としての役割を果たすとともに、関係機関との連携を図りながら、目標である 8,400 頭のと畜頭数を確保し、安全かつ安心な食肉を安定供給できるよう、下記の取組みを進めていきます。

記

１　牛の集荷活動

食肉の安定供給につながるよう、牛のと畜頭数を増加させるため、当公社と加古川食肉産業協同組合及び加古川中央畜産荷受株式会社が協力し、兵庫県内だけでなく、近畿、中四国などの畜産農家に対しても、関係者からの声掛けや直接訪問など、牛の出荷要請活動を積極的に進めていきます。

２　施設などの計画的な修繕

建物や設備などの老朽化対策として、定期メンテナンスだけでなく、重要な設備については優先順位をつけながら、計画的な修繕を進めていきます。なお、令和８年度は、老朽化が著しい機器の更新を予定しており、対象は次のとおりです。

①　高架水槽大規模改修

②　井戸水中ポンプ

３　輸出施設としての認証取得及び販路拡大

海外での和牛肉需要が高まっていることを踏まえ、台湾をはじめとする新たな国・地域の輸出施設としての認証取得と販路の拡大を目指し、これらに必要なＨＡＣＣＰ方式による継続的な衛生管理の取組みを進めていきます。

４　経費の削減

施設などの老朽化による維持補修費が増加していることを受け、小規模な修繕は自ら対応できるよう、保守要員を募集しているところですが、施設の規模や機器の特殊性から、担い手の確保には至っておりません。引き続き、ハローワークと連携を図りながら、早期の確保に努めます。

また、光熱水費については、より一層の井水の有効利用を推進し、単価の高い上水の使用を抑えるとともに、加古川食肉センターの多くのステークホルダーに対して、昨今の厳しい経営状況に対する理解と節約に対する意識の向上を促していきます。

5　地域ブランド牛の普及推進

高品質な地域ブランド牛である「加古川和牛」及び安全・安心で手頃な価格の「志方牛」の認知度を高めるため、補助事業を活用した試食会をはじめ、加古川市農林漁業祭やその他各種団体が実施する関係イベントを通じて、積極的にＰＲ活動を行い、加古川市民だけでなく、より多くの方に認知されるよう普及に努めます。また、特産品としての地位をより一層高めることで、地域の食肉産業の充実に繋げていきます。